

文化財保護センターだより

第2号

平成3年10月10日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

〒501-02 岐阜県本巣郡穂積町牛牧宮下395 TEL (FAX) 05832-7-8980

●もくじ

高山陣屋跡出土玩具類……………1	発掘を終えて……………4
文化財保護の殿堂に期待……………2	センターだより……………8
発掘状況……………3	整理作業に参加して……………8

高山陣屋跡

出土玩具類



上段は土製模造品。左から、貨幣、硯、算盤、角盆。模造貨幣は「文政南鐐二朱銀」を模したもので、縦2.2cm、横1.4cm、厚さ0.2cm。硯は、縦2.3cm、横1.0cm、厚さ0.2cmの長方硯で、「海」「丘」の部分が黒く塗られています。算盤は縦0.9cm、横2.3cm、厚さ0.3cmです。角盆（推定）は1.7cm四方で厚さは0.2cmです。下段は人形類。左は、左脇に鯛を抱える恵比寿像で、高さ3.8cm、最大幅2.2cm。型合わせの前面のみです。中央も同じく左脇に鯛を抱える恵比寿像で、現在高5.6cm、最大幅4.9cm。前面上半身のみです。右は武人像で、現在高4.4cm、最大幅3.9cm。大きく欠損しています。いずれも陣屋役人の弟子が、玩具として使ったものと考えられます。

文化財保護

の殿堂に期待



関市教育長
船戸 政一

去る九月八日、野口廃寺（各務原市）の発掘現地説明会に参加しましたが、日焼けした調査員の目の輝きがとても印象的でした。

振り返ってみますと、私が考古学に関心を持つようになったのは四十年も前のことで、岐阜県で初めて本格的な学術調査が九合洞窟遺跡（美山町）で実施され、それに参加してからのことです。数千年も昔の人骨や石器、骨角器などをおそるおそる手にして、感激したことを覚えています。それから幾度も発掘調査に参加させてもらいました。

数点の土器片しか出なかった宗慶大塚古墳（真正町）、吹き出すように水が流れ出た朝日貝塚（愛知県清洲町）、三角縁神獸鏡や短甲など多数の副葬品が出土した竜門寺一号墳（岐阜市）など、その時々素朴な感激や感動が、今も鮮明に甦ります。

最近の発掘調査はアイソトープや花粉分析など、さまざまな自然科学的手法が採り入れられて、大きな成果が挙げられています。けれども、私たちが出土品から受ける不思議な力と感動は、発掘方法が進歩しても決して変わらないと思います。

近年、古代史探究に興味をそそるような、発掘や発見が全国的に数多く行われています。吉野ヶ里遺跡のように華やかな話題を集めた

ものもありますが、他県に比べて、研究を継続しつつ全国的交流を推進するリーダーが育っていないと言われている岐阜県でも、一昨年、県博物館で開催された「美濃の前期古墳」のシンポジウムのように、また、飛驒の下呂石を材料とする石器の分布調査など、地道で確かな研究が着実に進んでいます。それに、信長館跡（岐阜市）や東氏館跡（大和町）の発掘のように、戦国武将の居館についての考古学的研究も盛んになりつつあります。また、高山陣屋跡の発掘と復元は、古文書を材料とする歴史学との共同の成果によるものと言えます。関市史の編纂でも同じように中世刀鍛冶を始めとする、考古学と歴史学の共同研究を進めつつあります。さらに、京都府作山古墳のように、視覚的・立体的に展覧できるような、思い切った遺跡の復元事業が塚原遺跡（関市）でも進められています。いずれ、これらのものは全国的に注目を浴びるものと確信しています。

こうした時、県民の久しい待望を背負って県文化財保護センターが発足しました。解決しなければならない問題が山積していることでは、県民の素朴な心に応え得るようなセンターであってほしいと思います。また、学問研究の殿堂として、埋蔵文化財にとどまらず、県内の優れた文化財を広く調査・研究し、全国的に見ても高いレベルにあると、評価されるような成果を挙げてほしいと願っています。そうしたことが、県民の支援を強め、後継者を育成するもとなると思うからです。

発掘状況

■トピックス 徳山埋蔵文化財発掘調査

▶ 特異な石棒が出土 (上原遺跡)



上原遺跡出土の石棒

上原遺跡（揖斐郡藤橋村大字徳山字上原）では、今年度、上の写真のような石棒2点が出土しています。

写真上の石棒は、長さ12.5cm、幅1.5cmの小型のもので、石材はホルンフェルスです。頭部は全周に溝があり、さらに先端部に縦に溝を入れています。反対側は全周する溝で折損していますが、同様の形状の両頭の石棒であった可能性があります。出土状況は、表土下85cmの配石遺溝に伴って、残存する頭部を下に直立した状態で検出しました。

写真下の石棒は、長さ11cm、幅1.7cmで、石刀とも考えられる形をしており、石材は結晶片岩です。中央付近に溝が全周し、さらに腹側にも溝を入れています。その溝は先端部と末端部を巡り、背の部分にも達しています。従来はもう少し長かったのが、現在の末端部で折損したため、再加工した形跡があります。出土状況は、表土下40cmのピットに横たわった状態で検出しました。

この2つの石棒は、形状や大きさから、縄文時代後期～晩期の特徴をもっています。

▶ 集石遺構から打製石斧5点出土 (塚遺跡)

塚遺跡（揖斐郡藤橋村大字塚字村平）の第2号集石遺構から、同一石材から製作したとみられる、打製石斧5点と剥片2点が出土しました。

本遺跡では、集石遺構を3基検出しました。第1・3号集石遺構は、φ10～20cm程の川原石からなるものですが、第2号集石遺構は30～60cm大の川原石からなるもので、互いに近接しています。

第2号集石遺構の規模は、長軸約5m、短軸約2mで、北東方向へ細長く延びています。本遺構の北西側は扁平な川原石が立ち並び、南東側は平らに置かれています。

打製石斧が出土した地点は南東端で、集石が円弧状に配され、この間に焼土が広がっていました。この焼土の北側のやや扁平な川原石の下に、同一石材から製作されたと思われる打製石斧が5点と剥片2点が、折り重ねた状態（写真中央）で出土しました。遺構の状況や出土状態から、何らかの祭祀に関する埋納と思われます。



打製石斧出土状態

発掘を 終えて

■高山陣屋跡発掘調査概要

所在地

高山市八軒町1丁目

発掘調査期間

平成3年4月19日～7月13日

調査面積

800㎡

遺跡の立地

高山盆地の中央部、宮川の左岸

時代

江戸時代

1. 遺跡の概要

史跡高山陣屋跡は、江戸幕府直轄地（天領）の役所跡です。今回発掘調査をした地点は郡代の役宅跡と推定されている所です。

郡代役宅は、大正元（1912）年に撤去されて、その跡地には、同13（1924）年に岐阜監獄高山支所（後に岐阜刑務所高山拘置支所）が新設されました。

発掘調査の結果、岐阜監獄高山支所新築にあたって大規模な整地工事が行われたこと、堅固な土台基礎部の工事が地面深くまで行われていたことが明らかになりました。



用水池跡

こうした中で、江戸時代の図面にも載っている用水池跡をはじめ、竈跡・地下式石室跡・井戸跡など、江戸時代の生活面下に掘り込まれた遺構を検出することができました。また、遺物としては、江戸時代の生活をしのばせる陶磁器類・道具類・銭貨類などとともに、ミニチュアの土製品などの玩具類（表紙写真）も出土しました。

2. 主な検出遺構

建物の礎石などはほとんど検出できませんでしたが、郡代役宅に伴うものと推定される遺構が検出されています。

(1)用水池跡

東西4.1m南北3.4m深さは現状で0.7mを測ります。池底は粘土張りで、その一部は一段掘り下げて、水溜め場になっています。構築方法は、南方は割り石の間知石積み、他の三方は川原石の木口積みです。出土遺物は、江戸時代末期の陶磁器類と銭貨（寛永通宝）、玩具類などです。文政13（1830）年の間取り図には、「用水」と記された方形の池があり、位置的にも合致します。

(2)竈跡

竈跡が3カ所で検出されました。いずれも周辺部まで赤く焼けていて、長く使用された痕跡が認められます。

- ・竈跡1 周囲がかく乱されていますが、南北2.9m東西2.0mを測ります。約50cm掘り下げてあり、炊口は南です。
- ・竈跡2 二口竈で南北2.4m東西1.7mを測ります。炊口は南向きで一段下がっています。炊口の周囲は川原石が横積みになっています。

- ・竈跡3 残り具合は悪いです。
炊口は西です。後述の地下式石室跡が築かれた時に壊されています。



竈跡2

(3)地下式石室跡

東西2.6m南北1.9m深さは現状で1.4mを測ります。西南隅に階段が設けられています。構築方法は、川原石を木口積みし粘土で目詰めしています。底部に「八十五」と墨書された陶器の甕が出土しています。

(4)井戸跡

川原石を木口積みにし、内径55cmを測り、深さは不明(ただし1m埋土は排除した)。袋状に下に行くほど広がっています。廃棄時期は埋められていた瓦礫より大正年間と推定されます。

3. 主な出土遺物

(1)陶磁器類

碗 皿 鉢 甕 すり鉢 湯呑み茶碗

德利 土瓶 灯明皿 酒杯 土鍋

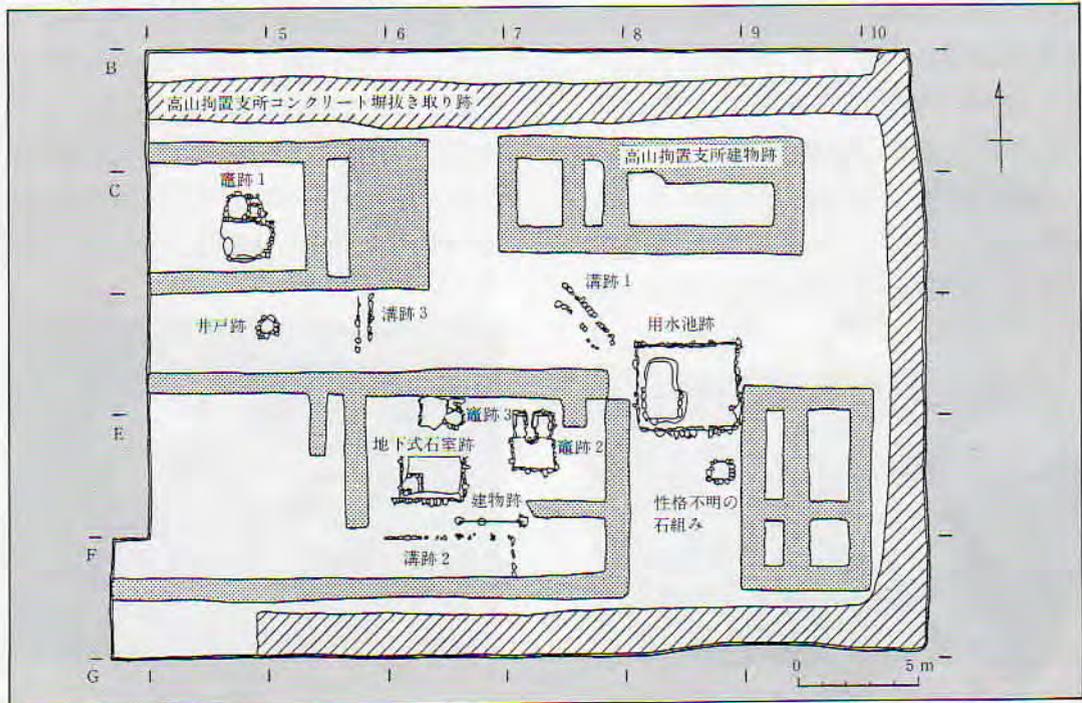
(2)道具類

硯 煙管 石臼

(3)その他

瓦類 玩具類 寛永通宝

遺物の主体は江戸時代後半期から明治・大正・昭和のものです。18世紀代まで遡る肥前産の磁器もありますが、特に明治以降の磁器類が多いようです。



高山陣屋跡遺構全体図

■城之内遺跡発掘調査概要

所在地

岐阜市長良西後町

調査期間

平成3年4月22日～7月31日

調査面積

1,100㎡

遺跡の立地

長良川右岸の扇状地の扇頂付近



遺跡完掘後の全景

1. 遺跡の概要

この地は、弥生時代から室町時代にいたる遺物が採集されており、城之内遺跡（じょうのうち）という名称で呼ばれています。ほかに人面瓦をはじめとする瓦類の採集によって、「長良廃寺」（白鳳時代）とも呼ばれてきています。

今回の発掘調査において、明らかになった主な点は次の三点です。

まず第一に、長良廃寺が存在した同じ時期と考えられる遺物（須恵器）が多く出土しました。寺の存在を示す遺構は検出されなかったものの、この地には白鳳時代から奈良時代にかけて、なんらかの公的な建物が存在していたと考えられます。

次に、中世の溝・土壇（どこう）及び土器類が多く検出され、鎌倉から室町時代にこの

地でも生活が営まれていたことがより明らかになりました。特に中世の遺物・遺構については、美濃国守護土岐氏の屋敷「枝広館」を城之内遺跡内に推定する考えがあることから、大変興味深いものがあります。

第三は、本遺跡から出土した遺物が縄文時代晩期・弥生時代後期・古墳時代・奈良時代～中世と多岐に渡っていることから、この長良の地が古代より良好な生活の地であったことが推測されます。

2. 遺構について

検出された遺構は、土壇が四基、溝跡が二条、井戸跡が二基です。

土壇のなかで三基は人頭大の河原石が底部に敷かれており、長楕円形をしています。これは他の遺跡の例から中世の墓穴と考えられます。

溝跡は調査区域を南から北へ傾斜しています。溝1は出土した遺物から15世紀から16世紀にかけて使用されたと考えられます。その隣りにある溝2は13世紀ごろのものと考えられます。これらの溝は、排水や土地の区割りに用いられたと思われます。

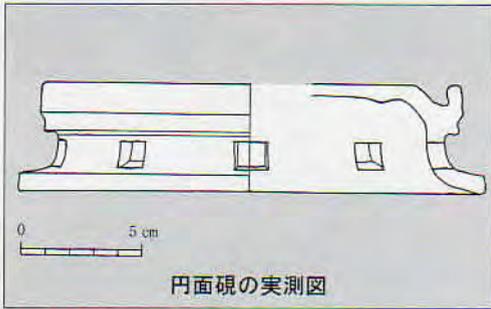
井戸跡は二基ともに検出した面において石が巡っていませんでしたが、底部に近づくに従い河原石が出土し、本来は石積みの井戸であったと考えられます。



土壇

3. 遺物について

幅広い時代の遺物が出土した中で、特筆すべきものは、須恵器の円面硯です。図に示した通り、陸の周縁に幅の狭い海を設けています。陸にあたる部分が磨滅していることから実際に使用されたと思われます。



円面硯の実測図

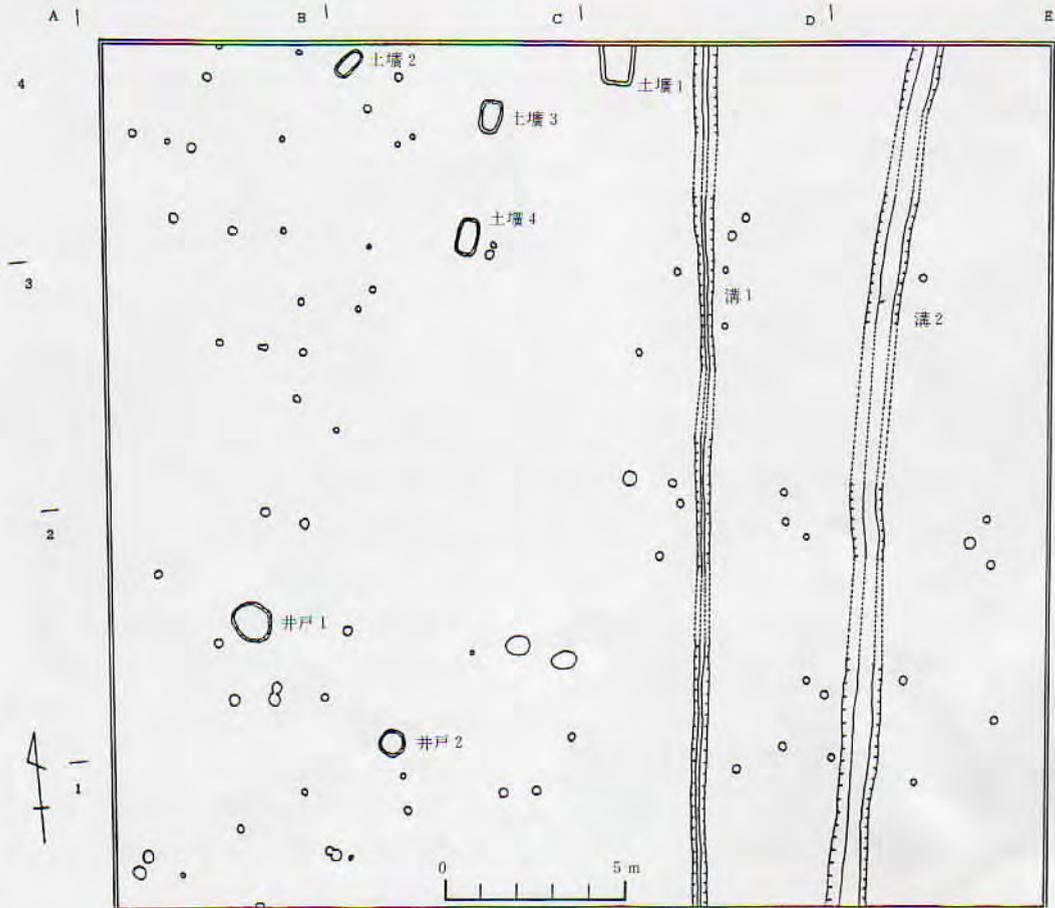
縄文時代の遺物としては晩期の浅鉢、石斧、石鏃が出土しました。

弥生時代から古墳時代の遺物は甕、壺、蓋、S字状口縁台付甕(弥生時代後期の土器)、高環などが出土しました。

白鳳時代から奈良時代の遺物は坏身、坏蓋、高環、甕などが出土しました。甕の中にはヘラ書きで「寺」と書かれた物や、底部にヘラ書で「本」と書かれた物が出土しました。その他、寺院があったことを示す瓦類が少量出土しました。

中世の遺物は日常生活に用いられた山茶碗が、他の遺物に比べ多く出土しました。その他、土師質土器(素焼きの土器)、常滑焼、中国青磁などが出土しました。

また時期は不明ですが、網のおもりとして用いられた土錘が多く出土しています。



城之内遺跡 遺構全体図

センターだより

●整理作業に参加して（その1）

遺跡から発見された土器や石器は、センターの作業場へ運ばれ整理されます。土器等について土を洗うこと、土器の文様を拓本にとること、土器の破片を接合することなど、整理作業をします。その主役がパートの主婦です。この仕事に参加されたきっかけを聞きました。

「以前から歴史が好きで古代の遺跡などに大変興味を持っていました。たまたま紹介して下さいの方がおり、家からも近くだったので勤めることにしました。」

「全村水没する徳山のことを何でも知りたと思っていましたところ、徳山の遺物に触れることができると聞き喜んで勤めました。」

「今まで全く縁のなかった縄文時代の埋蔵物が、身近な所で整理されていることを知り興味があったので早速参加しました。」

「埋蔵物には以前から興味がありましたし、勤務時間に余裕があって家事とも両立しますので…。」



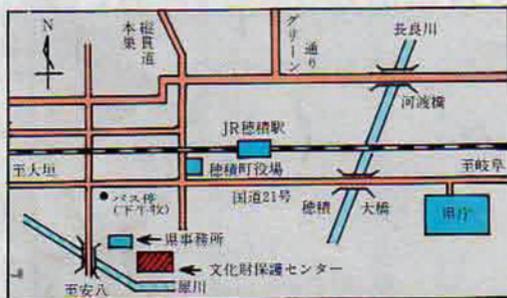
整理作業風景

●日誌

- 3.7.9 県博物館夏期特別展開場式出席
- 13 高山陣屋跡発掘調査納め式及び現地説明会開催(93名参加)
- 17 各務原市埋蔵文化財調査センター開館記念式典出席
- 17 富加町教育委員会松山教育長他来訪
- 31 城之内遺跡発掘調査納め式及び現地説明会開催(48名参加)
- 8.1 県教育委員会各務原文化課長新任挨拶
- 8.13 愛知県埋蔵文化財センター視察
- 19 東京大学埋蔵文化財調査室成瀬晃司氏高山陣屋跡調査
- 27 藤橋村長告別式参列
- 9.5 吉田小学校5.6年生(53名)・三城小学校6年生(55名)児童発掘体験学習
- 11 岐阜大学教育学部梶田澄雄教授宮下遺跡調査
- 15 東海北陸自動車道美並インターチェンジ工事安全祈願祭出席
- 19-20 全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会参加
- 30 水資源開発公社徳山ダム建設所古賀邦雄第二用地課長退任挨拶
- 10.7 国立歴史民族博物館千田嘉博氏鶴尾山遺跡調査
- 7 水資源開発公社徳山ダム建設所仁科品典第二用地課長新任挨拶
- 8 県博物館「鹿児島ーその自然と歴史」開場式出席

■編集後記

関市の船戸教育長さんには、お忙しいところ貴重な原稿をお寄せいただき感謝いたしております。焼け付くような真夏の日の作業も



順調に進み、漸く過ごしやすい季節になりました。朝露に濡れたムラサキシキブの小さな実も一段と彩りを深めてきました。現場の方々には御苦勞の多かったことと思います。本号からは発掘や整理作業に参加されている人達の率直な感想を「センターだより」に順次載せていきたいと思っています。

「きずな」が人々に親しまれ、センターがより開かれた存在になることを願い、みなさんのご意見をお待ちしています。